

# 皆で応援すると

令和元年 11 月  
立川女子高等学校  
カウンセラーだよりうら裏



ラグビーワールドカップが開かれています。日本は予選リーグを4勝無敗で史上初の決勝リーグに勝ち進み、世界のベスト8に入りました。パブリック・ビューイングが各地で開かれ、たくさんの人がそこに集まって観戦しました。会場では、日本チームのキックが成功すると皆が一斉に喜び、トライが決まれば、全員が立ち上がり手を叩いたりして喜びました。自宅でテレビを見て応援するのも楽しいですが、パブリック・ビューイングでたくさんの人と一緒に観戦すると、より一層盛り上がります。知らない人とも言葉をかわし、時にはハイタッチして一緒に喜ぶことができます。

なぜ、たくさんの人と一緒にだと喜びが大きくなるのでしょうか。

それは、私たち人間には「共感」する能力があるからです。「共感」とは、他人が抱いている感情を感じ取り、同じような感情を自分も体験することです。そばにいる皆が喜んでいて自分もうれしくなり、皆ががっかりしていると、自分もがっかりします。だから、一緒に観戦している人たち全員が、同じタイミングで喜ぶことができます。

もうひとつの理由に「同調」があります。「同調」とは、自分の行動を他の人の行動に近づけたり、合わせたりすることを言います。例えば、友達とカフェなどに行った時、友達が注文したものと同じものを頼みたくなったり、人がたくさん行列を作っていると、自分もその列に並びたくなったりするのも「同調」です。

パブリック・ビューイングでは、「共感」や「同調」の心理が大きく働くので、1人でテレビ観戦するよりも、喜びや悔しさが大きくなると言われています。

「共感」や「同調」は学校生活の中にもたくさん見られます。体育祭や合唱祭の時、クラス全員が一致団結して頑張ることが出来るのも、「共感」や「同調」の心理が働いているからだと考えられます。

しかし、「同調」の心理は、悪い方向へと私たちを向かわせることもあります。例えば、Aさんが同じグループのBさんを嫌いになり、他のグループの人たちにBさんの不満を言ったとします。グループの他の人はいっしょにAさんに同調して、Bさんの悪口を言ってしまおうということがあります。これは「同調」が悪い方向に走ってしまった例です。その他にも、SNSで誰かが誰かの悪口を発信した時、つい自分も一緒になって悪口を言ってしまふこともあります。このように、同調が集団によるいじめにつながってしまうこともあります。



私たちは日々、他の人の言葉や行動に影響を受けて生活しています。人の素敵な言動に「同調」することは素晴らしいことです。ですが、それが喧嘩やいじめにつながらないよう、充分気をつけましょう。